

情報連絡員報告総括表(令和5年9月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・異例の暑さにより、9月はパンの販売売上が過去最低となっている。 ・原材料価格の値上がりが止まらない。 ・資金繰りが悪化し、経営的には非常に苦しい状況である。
	豆腐製造業	↗	↗	↗	→	↘	→	→	↘	↘	・消費者の節約志向と低価格の細分化により、価格転嫁後、受注量が減少し売上が伸びていない。 ・原材料費やエネルギー価格の高騰によるコスト増、価格転嫁後の注文数量減少、社員の定年退職や高齢化等が重なり、大手メーカーと肩を並べるポジションにあった県内豆腐製造業者が廃業を決断している。
繊維工業	ニット製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	↘	・アパレル関連は悪化傾向、自動車関連は堅調に推移している。
	絹人織織物製造業	↘	↗	↗	→	↘	↘	→	→	↘	・円安による物価上昇が止まらず、実質賃金が低下しており、化合繊維物、絹織物共に、需要が低迷している。 ・輸入原材料価格も高騰しており価格転嫁を行いたいが、需要が低迷している時に価格を上げれば売上数量が減少してしまうため、収益の確保が困難である。
	綿・スフ織物業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・受注状況は好調をキープしているものの、諸経費の高騰により、収益面では低調なままである。
木材・木製品	一般製材業	↘	↘	↘	→	→	→	→	→	↘	・木材利用の大半を占める新設住宅着工戸数について、前年同月比で富山県は6.8%増となっているが、木材関連事業者からは、県産材、ロシア材とも入荷は順調だが、荷動きが鈍く客足が悪い状態が続いているとの報告が多い。 ・需要の低迷に加えて、電気代、運賃、燃料代、人件費などのコストアップが要因となって、木材関連事業者の経営状況は、継続して非常に厳しいものになっている。 ・木材製品価格は、全体的に乾燥剤を中心に値下がり傾向が続いている。県産材素材価格は、昨年夏から下落傾向が続きウッドショック前に近い水準に戻っていたが、直近の価格はやや値上がりしている。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印	刷印 刷業	→	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・売上や販売価格には、全体的に著しい変化は見られなかったが、総じて収益、景況の悪化は止まっていない。 ・イベント等の開催が再開されているが、資材高騰による値上がりの影響により、発注量の削減が生じている。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料や燃料の価格高騰に加え、原料製造企業の出荷停止等があり、安定した生産に一部支障をきたしている。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比8.8%の減少となっている。 ・4月～9月の累計出荷数量は、前年比で4.2%減少しており、4月より出荷量の低迷傾向が続いている。
	コンクリート製品製造業	→	→	↗	→	→	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足が続いている。
	骨材・石工品等製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・骨材需給は顕著に推移している。 ・令和6年度骨材標準価格について値上げが決定しており、生コン業界等との意見交換によって値上げ額を協議している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	→	↘	・海外経済減速の影響を受けて、生産量は前年同月を大幅に下回っている。 ・先行きの不透明感が依然として強い。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	↗	→	↗	→	↗	↘	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産受注が持ち直し、安定傾向にある。 ・景気は、コロナ禍前の水準まで回復している。 ・材料費の高騰、溶接作業に伴う電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高による賃上げ、価格転嫁等の課題が山積している。 ・10月からのインボイス制度の実施で、各社、経理事務が輻輳している。
	めっき加工業	↗	→	↗	→	↗	→	↘	↘	→	・価格転嫁による販売単価の上昇によって、売上は増加している。 ・9月までは電気代等の高騰の影響は少なく、収益状況は良好である。 ・入荷状況は減少傾向にあり、稼働率は低下している。
一般機器	金属工作機械製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	→	・受注状況について、軸受、工作機械は前月より若干持ち直したが、全体的には前年より減少しており、前年同月比83.25%となっている。 ・自動車関連の下企業の景況は、コロナ禍前の状況まで回復・改善してきているが、地方(富山県)はまだまだ見通しが立たない状況である。
	金属加工機械製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・低迷感が更に強まっており、企業存続も危ぶまれる状況になりつつある。昨年並みとする企業もあるが、一部ではより厳しいものとなっている。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・前年同月比は、ほぼ横ばいの業況となっている。 ・売上高は、工作機械、産業機械向けが低調、自動車向けはやや増加している。 ・行動制限が少なくなり、世界的なお金の流れがモノからサービスへ移行していることで、コロナ規制が無くなったことによる良い影響は少なく、むしろ需要の面で、業況にはマイナスの影響があると思われる。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・東京で全国漆器店が開催され、来場者の傾向について、コロナ禍前は爆買いしていた中国人の来場はほぼゼロであり、半数以上が欧米人である。中国人はモノよりコト消費に流れているようで、体験型の観光に切り替わっている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↓	→	→	→	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・県内工事量の大幅な減少が主な要因となって、袋セメント取り扱い数量の減少が目立っている。また、組合扱いセメント袋から、安価な員外組合員のホームセンターの廉価袋に流れていることも要因となっており、セメントを供給しているメーカーが不明なため、価格差是正を見直す手立てもなく、この状況は続く想定している。 ・組合収支改善のため、11月出荷分より、セメント売価や組合手数料単価を引き上げる予定である。
	非鉄金属製品卸売業	↓	↓	↑	↓	↓	↓		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・未だ回復感がないという声が多い。
小売業	鮮魚小売業	↓	→	↓	→	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や店舗によって状況に差が出ているものの、全体を見ても、決して景況感に好転反応は見られず、収益性は厳しいままである。
	野菜・果実小売業	↓	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・富山卸売市場の売上高は、前年同月比98%、青果組合全体の売上高は、前年同月比94%となっている。
	家庭用電気機器小売業	↓	↓	→	→	↓	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・夏商戦が一段落し、9月に入ってからメーカー担当者の移動や秋冬の新商品の研修会などで、売上は減少している。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	ガソリンステーション	↓	→	↓	↓	↓	↓		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・先月に引き続き需要の回復感は弱く、ガソリン価格の高騰や物価高による節約志向や買い控えが響き、ガソリン販売量は、前年同月比で5%～10%減少の見込みである。 ・ガソリン販売価格については、燃料油価格激変緩和事業の9月からの新制度の影響から、徐々に下降傾向に推移しているが、前年同月の価格を約12円超えている。 ・事業者及び給油所数が減少する一方で、セルフ化率は増加傾向が継続している。
	農機具小売業	↓	↓	↓	↓	↓	↓		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・今夏の小雨・高温の気象条件の影響により、農作物の生育状況が悪く、農家の収入が減少していることから、機械導入控えが多くなり、売上が減少している。
	ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・9月は、前年同月比で売上は103.7%、客数は101.0%と前年を上回っている。 ・8月分の電気代の支払いが過去最高金額となり、資金繰りに苦しんだ9月となっている。 ・10月には大創業祭があり、期待している。
	ショッピングセンター	↑	→	↓	↓	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が増加している要因の一つに販売商品の値上げが挙げられ、額面通りの増加とは言い難いと思われる。 ・電気代などの水道光熱費、原材料費、人件費などコスト増による収益の圧迫が今後懸念される。

業種	項目	売上	在庫	販売	取引	収益	資金	設備	雇用	業界	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
		高	量	価	条	状	繰				
商店街	商店街	→	→	↗	→	→	→		→	→	・真夏日が続いたため商店街アーケードへの老人や子供の入込が少なかったが、涼くなった今後に期待している。 ・イベントによる商店街への回遊が多かったことから、イベントを利用した各店の工夫が非常に重要であると考えている。
	商店街	↗	→	↗	→	→	→		→	↗	・物販関係は昨年とほぼ同じ売上である。 ・飲食関係は昨年よりも伸びており、特に平日の伸びが大きく、逆に土日祝日は昨年より減少している。
サービス業	クリーニング業	→		→	→	→	↘		→	→	・特になし。
	飲食業	↗		↗	→	→	→		→	↗	・売上が前年同月比で13%増加している。 ・求人を出しても応募が無く、人材確保に苦慮している。
	建築設計業	↘		↘	↘	↘	↘		→	↘	・官公需、民間共にまとまった仕事が少ない。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・9月の自動車新車新規登録・届出台数は、前年同月比で13ヵ月連続で増加しているが、コロナ禍前の状況には戻っていない。材料や部品の供給不足による生産調整の影響は着実に縮小しているものの、現状の受注残を大きく解消するだけの生産体制の構築は依然として厳しい状態である。 ・受注残の解消後は、ウクライナ情勢や為替市場、物価高騰の状況によっては、自動車の車両価格が更に値上がりすることとなり、購買意欲が薄れ、新車販売台数の減少となることが予想される。 ・自動車整備事業者においては、自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えており、対応できない事業者は扱える車種が加速度的に減少していく状況である。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	→		↘	→	↘	→		→	↘	・地場物件の見積が少なくなり、冬場に向かって仕事量と価格の下落が心配である。 ・大都市圏の大型物件については、2024年の輸送問題が心配される。一般的に運賃は鉄骨加工業者の請負範囲であるが、加工業者は采配出来ないことが多いため、今後、オントラック(車はゼネコンが手配し、加工業者は鉄骨の積込みまで)での契約を増やしていかなければならない。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・資材価格の値上げが4月に続き10月にも打ち出されており、お客様への価格転嫁の賛同に苦慮している。 ・各種技術者受験準備講習会を開催し、資格を有する技術員の確保を図っている。
	電気工事業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・民間設備投資が順調に推移しており、収益は改善傾向にある。 ・新規住宅着工件数は7月以降下降傾向にあり、11月以降に影響が出る見込みである。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	↘	→		→	→	・軽油価格について、前年同月比+8.8円/ℓ前後で推移し、依然として収益を圧迫している。但し、燃料油価格激変緩和事業の9月からの新制度の影響により、前月比-5.2円/ℓとなっており、来月も更に下がると予想している。
	道路貨物運送	↘		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比+9.7円/ℓ、前月比-5.2円/ℓとなっている。 ・物量については、前年同月比93.8%と落ち込み幅が大きい。